

- 問1 弥生時代に作られた銅剣や銅矛などの青銅器は、主に何という儀式の道具として発展した？
- 問2 1世紀に日本の奴国の王から使者が送られた際、返礼として金印を授けた後漢の皇帝は誰？
- 問3 佐賀県に位置し、環濠集落の中でも大規模で、高床倉庫や物見やぐらが復元されていることで知られる遺跡は何という？
- 問4 弥生時代に大陸から伝わり、武器としてではなく、祭祀や儀式の際に用いられた青銅製の釣り鐘型の道具を何という？
- 問5 銅剣や銅矛が多く出土しており、銅鐸の主な出土地帯とは異なる特徴を持つ地域はどこ？
- 問6 奴国からの使節の来訪や金印の授与についての記述がある、中国の歴史書を何という？
- 問7 弥生時代に北部九州を中心に多く出土している、中国から輸入された鏡を何という？
- 問8 弥生時代に導入された金属器のうち、硬度が高く、刃先などの実用的な道具として生産力の向上に貢献したものを何という？
- 問9 57年に奴国の使者が訪れ、金印を授けたとされる後漢の皇帝を何という？
- 問10 高床倉庫の柱に取り付けられた、ネズミが倉庫の中に侵入するのを防ぐための工夫を何という？
- 問11 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？
- 問12 縄文土器と比べて薄く作られ、煮炊きに適していたのはどのような温度で焼かれたから？
- 問13 九州地方で主に副葬品として使われていた、銅剣などとともに見つかる青銅の武器を何という？
- 問14 『後漢書』東夷伝などの歴史書において、弥生時代の日本列島に多数存在していたとされる政治的なまとまりを何という？
- 問15 弥生時代において、祭祀や儀式を行うために用いられた道具のうち、銅鐸や銅鏡などを総称して何という？
- 問16 弥生時代、奴国の使者が金印を授かった、当時の中国の王朝を何という？
- 問17 弥生時代に祭祀の道具として用いられ、指導者の地位の高さを示す象徴となった釣り鐘状の青銅器を何という？
- 問18 弥生土器の名称の由来となった、最初に見つかった場所は現在の何という地名？
- 問19 弥生時代に大陸から金属器とともに伝わり、それまでの採集中心の生活から定住型の社会へ変化させる大きな要因となった技術を何という？